

No.1742

第1743 回例会

2016年12月9日(金) 12:30～13:30
点鐘

ロータリーソング “我等の生業”

会食 (洋食)

会長会務

- * ビジター紹介。
- * 12月3日に第13回ロングトレイルフォーラム I N山陰海岸が開催されました。トレイルとはハイキングと登山を組み合わせた自然を味わうスポーツです。
- * 11日(日)は次期R財団委員長研修会、地区補助金管理セミナーが開催されます。いよいよ次年度の準備が始まります。
- * 2015～2016年度「ロータリーの友」の事業報告が届きました。RC会員の減少は止まったようですが、単年度赤字決算が続いているようです。ただ、賞味財産には問題はありませぬ。
- * 12月の誕生祝いを差し上げます。
岩崎陽一会員 山下聖児会員

バースディソング斉唱

幹事報告

- * ガバナーエレクト事務所より、次年度地区委員推薦のお願い。
- * 理事会報告。
- * 例会終了後、クラブ奉仕委員長会議を開催します。

委員会報告

- * 親睦・出席委員会
出席率・スマイル報告
- * その他

卓話「長引く咳に要注意」

会員 竹内一昭さん

先週(第1742回例会)の記録

2016年12月2日(金) 12:30～13:30
会長会務

- * ゲスト紹介。映画監督 森本良和氏
- * いよいよ12月です。天候不順や中部地震などいろいろな事がありました。来年が明るい年となるように仕事を通して地元に貢献しましょう。
- * 24日から東京に出張したのですが、54年ぶりの11月の雪を体験しました。電車も遅れるなど東京は雪に弱いところですよ。
- * 来年は明治維新から150年です。バランスのとれた「花仕事・共同作業」と「米仕事・農家でいう稲作 生業」を続けましょう。
- * 新入会員についてですが、会員からの文書による異議の申し立てがございませぬでしたので、西ロータリー規則にのり手続きを進めます。入会時期は1月になります。
- * IMについてですが、詳しくは役割分担を決めさせていただいたうえでご案内いたしますので、宜しく願います。

幹事報告

- * 昨年度の米山奨学生、林多(りんだ)さんよりご挨拶のメールが届きました。
(急用があり、岳さんと5月末に中国に戻ることになりました。皆様のお陰で学業を終了することができました。例会参加や皆さんとの会話など1年間で思いがけない収穫があり、今後の生活には重要な一部になりました。ありがとうございました。皆さんのご健康とクラブの発展をお祈りいたします。要約)
- * 年忘れ家族会の出欠の締め切りは12月8日(木)です。会費を次回例会で頂きます。

出席率

12月 2日 会員 50名 欠席 12名 75,00%
11月 18日 メーキャップ 5名 87,50%

スマイル

* 森下哲也会員／①先週の24日東京で初雪に会いました。②麻木さん、お世話になっています。③来年6月、RC世界大会に参加します。④写真、ありがとうございます。

* 平野会員／①松島さん、鳥取市産業功労賞、おめでとうございます。②写真、ありがとうございます。

* 吉田 博会員／写真、ありがとうございます。

* 岡田信俊会員／家族レクリエーション参加の皆様、ありがとうございました。

* 岡本安量会員／倭島さん、写真ありがとうございます。油谷さん、写真ありがとうございます。

* 松島 勇会員／写真ありがとうございます。

* 遅刻・早退2件 合計 13,000円

* ロータリー財団特別寄付 2件

メーキャップ会員

11月29日 山下卓治会員 鳥取北 RC へ

倭島副会長より

次年度役員の決定について。

副幹事 田中好洋会員

SAA 多田一昭会員

副SAA 宮本孟尚会員

副SAA 平井義一会員

副SAA 山根宗信会員

雑誌委員会 森本会員

ロータリー友 12月号紹介。

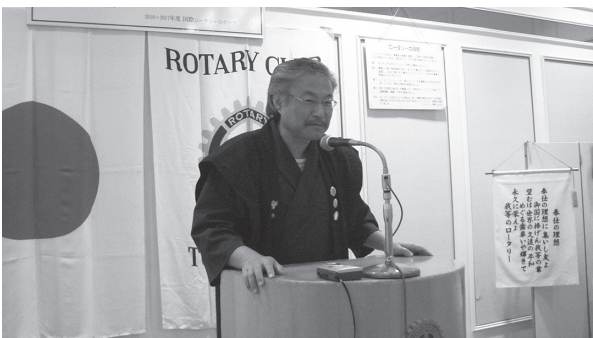
(RI 会長メッセージ、奉仕、その後・・・、(アフターケアは大丈夫ですか?)、ロータリー財団100周年を祝う、地区大会略報・・・etc)

田中ガバナー補佐より

2016 - 2017 年度国際ロータリー第2690地区第1・第2グループ合同IM 概要説明。

卓話 「明治維新は薩長因備の力」

映画監督 森本 良和氏



5年前に県職員を退職し、鳥取県民の歴史意識を高めるため、自己出版による映画作りを手掛けています。これまでに制作した映画として、維新の先駆け7本、自分の経験談による糖尿病関係1本、小泉八雲の怪談(鳥取にまつわるもの)2本、計10本に及びます。

明治維新に大きく関わったであろう因備(鳥取・

岡山)の解説を熱く語っていただきました。

今年9月に産経新聞鹿兒島版に掲載された志學館大教授・原口 泉氏の記事を抜粋いたします。

先般、鳥取市の映画監督、森本良和氏が西郷隆盛自筆書状のあることを教えてくれた。相手は岡山藩家老、土倉修理助正彦である。

文中で西郷は鳥取藩家老、荒尾駿河守成章について尋ねている。

“因州(因幡)家老の荒尾駿河という人は尊上(明治天皇)の所へ罷り出て、ぜひ勤王の御実行をしたいので、自分へも警固を命じてください。と申し立てたと聞きましたが、これはどういう事態でしょうか。朝廷がその申し出を聞き入れたことは私も承知しましたが、荒尾は一向にその動きをしていません。きっと貴方ならこの件についてご存知のはずだと思い、ひとまずお尋ね申し上げます。荒尾は真に王事に尽くす者でしょうか。ただ朝廷の御都合向きを計らっているだけでしょうか。御賢慮を拝承したく、略儀ながら書をもって尊意をうかがいます。”

この書状が送られた日は慶応3年12月24日江戸の薩摩藩邸が焼き打ちされる前日、旧幕府軍との鳥羽伏見の戦いが始まるのは翌年正月3日。荒尾はこのとき御所の警備をし、新政府側に味方している。因備すなわち鳥取藩と岡山藩は、ともに池田氏が藩主だった。この両藩は鳥羽伏見の開戦2日目に新政府側についていた。これは大久保利通が島津久光側近の蓑田伝兵衛に宛てた手紙で確認できる。

因備が戊辰戦争の緒戦で新政府に味方したことの意味は大きい。新政府軍は西国へ戦力を削ぐことなく、関東へ出軍できたからである。

では、いつ頃から西郷は、岡山藩家老の土倉と通じていたのだろうか。それを知る手掛かりは桐野利秋日記にある。桐野は戊辰戦争の鳥羽街道の総指揮から会津鶴ヶ城の受け取りまで大役を果たしている。鳥取藩主、池田慶徳も徳川齊昭の五男で、将軍徳川慶喜の兄だったので、両藩が新政府に味方したことは、旧幕府の士気を喪失させたことであろう。

最後となりましたが、今後、西ロータリーの企画で映画を作る機会がございましたら、宜しくお願いいたします。

次週例会予定

2016年12月16日(金)第1744回例会
年忘れ家族会 18:30～

(編集者 平井義一)